

**令和6年度 第2回**

**「脱炭素×復興まちづくり  
プラットフォーム」**

**総会**

2025年2月12日

下記のスケジュールに沿って進行させていただきます

進行スケジュール

議題		ご登壇者様	時間	
受付、名刺交換		-	12:00～13:00[60min]	
第1部 【現地+オンライン】	プラットフォーム 参加者のみ	開会・座長ご挨拶	渡邊名誉教授	13:00～13:10[10min]
		承認決議	環境省 新保様	13:10～13:15[5min]
		復興庁からのご報告	復興庁 山岸企画官	13:15～13:25[10min]
		環境省からのご挨拶	環境省 長田参事官	13:25～13:30[5min]
～休憩～			13:30～13:45[15min]	
第2部 【現地+オンライン】	プラットフォーム参加 者+ 一般参加者	基調講演	伊達重機 前司様	13:45～14:15[30min]
		個別WGの進捗報告	各WGご担当者様	14:15～16:48[153min]
		①脱炭素×観光による地域振興WG	合同会社オトナリ 松山様	
		②脱炭素物流検討WG	沖電気工業株式会社 村谷様 (Web)	
		③帰還困難区域での脱炭素化事業検討WG	株式会社エックス都市研究所 山下様 (Web)	
		～休憩～		15:24～15:34[10min]
		④ネイチャーポジティブによるコベネフィット検討WG	株式会社バイオーム 古賀様	
		⑤脱炭素×農業WG	三菱ケミカル株式会社 根本様	
		⑥脱炭素建築×復興まちづくりWG	二チ八株式会社 赤川様	
		⑦地域還元型電源開発WG	環境省 新保様	
		⑧脱炭素燃料WG	環境省 新保様	
～レイアウト変更・座席移動～			16:48～16:55[7min]	
フリーディスカッション		-	16:55～17:55[60min]	
閉会のご挨拶		環境省 長田参事官	17:55～18:00[5min]	

# 第1部 座席表

司会

講壇

座長:渡邊 明様

事務局

	A列	B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列	K列	L列
1行	座長	前司氏	環境省	環境省	復興庁	復興庁	発表者⑥	発表者⑤	発表者④	発表者③	発表者②	発表者①

**④ネイチャーポジティブによるコベネフィット検討WG**


**①脱炭素×観光による地域振興WG**


**⑤脱炭素×農業WG**


**②脱炭素物流検討WG**




2行	事務局	事務局
3行	事務局	事務局
4行	事務局	事務局
5行	事務局	事務局
6行	事務局	事務局
7行	事務局	事務局

8行
9行
10行

**⑥脱炭素建築×復興まちづくりWG**


**③帰還困難区域での脱炭素化事業検討WG**


フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席
フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席	フリー席

出入口

# 開会・座長ご挨拶

# 承認決議

# プラットフォーム加入状況について

- 2月7日時点の加入者は229者になります。

産業界	
1	(株)IHI
2	(株)アサノ大成基礎エンジニアリング
3	アジア航測(株)
4	(株)アトラックラボ
5	アポログループ(株)
6	飯館バイオパートナーズ(株)
7	いすゞ自動車(株)
8	イオン東北(株)
9	石川恒産(株)
10	出光興産(株)
11	(株)ウッドコア
12	(株)ACDC
13	Ecoいち
14	(一社)えこえね南相馬研究機構
15	(株)えこでん
16	(株)エコロミ
17	(株)エックス都市研究所
18	(株)エナジア
19	NTCインターナショナル(株)
20	LEシステム(株)
21	応用地質(株)
22	(株)大川印刷
23	OKUMA DRONE(株)
24	(株)大林組
25	大林道路(株)

産業界	
26	(株)大和田測量設計
27	(株)奥村組
28	(合)オトナリ
29	(株)学研ホールディングス
30	葛尾創生電力(株)
31	カナデビア(株)
32	共栄(株)
33	京セラ(株)
34	協和木材(株)
35	(株)クボタ
36	(株)熊谷組
37	KDDI総研
38	株式会社GENX
39	(株)GENXリサイクル
40	(株)建設新聞社
41	(一社)高純度バイオディーゼル燃料事業者連合会
42	郡山観光運輸(株)
43	郡山観光交通(株)
44	コスモ石油マーケティング(株)
45	佐川急便(株)
46	(株)三和製作所
47	JR東日本エネルギー開発(株)
48	(株)JTB
49	(株)ジオパワーシステム
50	自然電力(株)

産業界	
51	(株)島津製作所
52	新協地水(株)
53	(株)神鋼環境ソリューション
54	新日本電工(株)
55	(株)新福島産業創生プロデュース
56	(一社)水素ドローン産業化推進協議会
57	須賀川瓦斯(株)
58	SPACECOOL(株)
59	(株)スマートアグリ・リレーションズ
60	スマートソーラー(株)
61	住鋳エナジーマテリアル(株)
62	住友ゴム工業(株)
63	住友商事(株)
64	(株)ZMP
65	全国農業協同組合連合会(JA全農)
66	(株)先端力学シミュレーション研究所
67	全日本空輸(株)
68	(株)相双スマートエコカンパニー
69	大成建設(株)
70	大東建託(株)
71	太平洋セメント(株)
72	大和ハウス工業(株)
73	(株)高萩重機
74	(株)伊達重機
75	(株)ちーの

※掲載順は五十音順となっておりますので、ご了承ください。

※青字は、令和6年10月1日の総会以降に本プラットフォームへご加入された方々です。

# プラットフォーム加入状況について

- 2月7日時点の加入者は229者になります。

産業界	
76	中間貯蔵・環境安全事業(株)
77	(株)テレビュー福島
78	デロイトトーマツコンサルティング(合)
79	(株)電通総研
80	東京産業(株)
81	東京電力ホールディングス(株)
82	東芝エネルギーシステムズ(株)
83	東武トップツアーズ(株)
84	東北交易(株)
85	東北電力ソーラーeチャージ(株)
86	東洋ライス(株)
87	DOWAエコシステム(株)
88	トヨタ車体(株)
89	(株)ドローン技術研究所
90	にいがた雪室ブランド事業協同組合
91	西尾レントオール(株)
92	西松建設(株)
93	ニチハ(株)
94	日揮(株)
95	日鉄エンジニアリング(株)
96	日本道路(株)
97	(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会
98	日本エヌ・ユー・エス(株)
99	日本環境防災(株)
100	日本工営エナジーソリューションズ

産業界	
101	日本工営(株) エネルギー事業統括本部
102	日本地下水開発(株)
103	(一財)日本品質保証機構
104	(一財)日本みち研究所
105	日本モビリティ(株)
106	(株)ネクシーズ
107	NextDrive(株)
108	根本通商(株)
109	(合)Noah 's ark
110	NPOバーチャルライツ
111	(株)バイオーム
112	パシフィックコンサルタンツ(株)
113	(株)浜田
114	(株)日立製作所 東北支社
115	ひろのプログレス(合)
116	福島エコクリート(株)
117	(一社)福島県発明協会
118	福島交通(株)
119	福島交通観光(株)
120	福島テレビ(株)
121	NPO福島まちづくり戦略会議
122	(株)福島民報社
123	福島民友新聞(株)
124	(株)福良梱包
125	富士コンピュータ(株)

産業界	
126	富士通Japan(株)
127	(株)ふたば
128	フタバ産業(株)
129	(株)双葉不動産
130	プリマックス(株)
131	フレスコ(株)
132	前田建設工業(株)
133	(株)孫の手
134	三菱ケミカル(株)
135	三菱重工業(株)
136	(株)南東北クボタ
137	(株)ミライト・ワン
138	モバイルソリューション(株)
139	八島運送(株)
140	ヤマト運輸(株)
141	UNIVERGY(株)
142	(株)ヨークベニマル
143	横河レンタ・リース(株)
144	ヨシモトポール(株)
145	(株)ライクス
146	(株)ライスレジン
147	楽天グループ(株)
148	(株)リクルート
149	(株)リコー
150	(株)リジェンワークス

※掲載順は五十音順となっておりますので、ご了承ください。

※青字は、令和6年10月1日の総会以降に本プラットフォームへご加入された方々です。

# プラットフォーム加入状況について

- 2月7日時点の加入者は229者になります。

産業界	
151	(株)リビングロボット
152	(株)レゾナック
153	六洋電気(株)
154	(株)ロボデックス

教育・研究機関	
155	(国研)国立環境研究所
156	(国研)産業技術総合研究所
157	(国研)農業・食品技術総合研究機構 農業環境研究部門
158	福島学院大学
159	福島工業高等専門学校

行政・関係機関	
160	田村市
161	南相馬市
162	広野町
163	檜葉町
164	富岡町
165	大熊町
166	双葉町
167	浪江町
168	飯舘村
169	福島県
170	経済産業省
171	資源エネルギー庁
172	復興庁
173	農林水産省
174	国土交通省 気象庁
175	福島相双復興官民合同チーム(官民合同チーム)
176	福島イノベーション・コースト構想推進機構
177	まちづくりなみえ
178	ふたばプロジェクト
179	おおくままちづくり公社
180	とみおかプラス
181	ならはみらい
182	広野町振興公社

※掲載順は五十音順となっておりますので、ご了承ください。

※青字は、令和6年10月1日の総会以降に本プラットフォームへご加入された方々です。

※市町村は市町村コード順に掲載しております。



# プラットフォーム加入状況について

- 2月7日時点の加入者は229者になります。

金融	
183	あいおいニッセイ同和損害保険(株)
184	あぶくま信用金庫
185	(株)七十七銀行
186	(株)東邦銀行
187	野村証券(株) 福島支店

個人	
188	飯塚修(スターバックスコヒーージャパン(株))
189	井出 茂(小松屋旅館)
190	江頭 信一郎(環境管理センター)
191	大川 泰一郎(東京農工大学)
192	大場 真(東北工業大学)
193	岡野 悠太郎(東北大学博士後期課程)
194	小沢 晴司(宮城大学)
195	小野寺 恭子(インアウトバウンド仙台・松島)
196	河村 和徳(東北大学)
197	國武 悠人(NEKIアドバイザー)
198	木場 和義(地球温暖化防止全国ネット)
199	小林 正明((一財)環境イノベーション情報機構)
200	齋藤 拓也(弁理士・正林国際特許商標事務所)
201	城土 裕((公社)日本技術士会)
202	大楽 聡詞(フリーアナウンサー)
203	高橋 賢一(IHI)
204	田川 寛之(福島学院大学)
205	竹谷 帆野波(三井住友信託銀行)
206	千葉 敏雄(医師・順天堂大学)
207	千葉 深香
208	津村 紀之(三井住友信託銀行)
209	土肥 良一(芙蓉総合リース)
210	永井 祐二(早稲田大学)
211	中野 和典(日本大学)
212	中橋篤(姫宮VIGサービス合同会社)

個人	
213	花田 真一(弘前大学)
214	平山 賢太郎(筑波大学)
215	廣木 雅史(京都大学)
216	増野 晶子(富士通)
217	真次 成昌(ノーリツ)
218	万福 裕造(農研機構)
219	三原 雄一(富士通)
220	宮澤 大喜(JapanCor)
221	宮藤 久士(京都府立大学)
222	村谷 正之(沖電気工業)
223	森 禎行(ヤフー)
224	森本 英香(早稲田大学)
225	柳川 玄永(三菱総合研究所)
226	山田 桂一郎(JTIC.SWISS)
227	米山 昌幸(獨協大学)
228	渡邊 明
229	亘 秀明(ノーリツ)

※掲載順は五十音順となっておりますので、ご了承ください。

※青字は、令和6年10月1日の総会以降に本プラットフォームへご加入された方々です。

# 未来志向PJ新ワーキング説明資料(廃棄物)

株式会社ライクス 20241220

# 環境省未来志向PJと新ワーキング:脱炭素×廃棄物とは

## 個別WG(廃棄物)設立の背景・目的

01

被災12市町村を中心に復興加速と持続可能な社会づくりの両輪推進を視野に、地域資源を最大限活用した地域循環共生圏の実現に向けて、「**廃棄物**」の利活用をテーマ・切り口にした新ワーキングを設立。

02

廃棄物の可能性を材料・バイオ工学の概念を取り入れながら物質、材料、構造体及びその他多様性に対して現代に適したアプローチを議論し、**マテリアル・ケミカル商品**開発等の立案に繋げる。

03

**浜通り自治体が抱える課題**や社会全体の課題からくる廃棄物の利活用アプローチを議論。

浜通り課題 例:家屋解体資材、除去土壌、アスファルト欠損、排気ガス由来のCO<sub>2</sub>吸収・回収 など

社会全体課題例:農業残渣、木くず、繊維くず、醸造くず、紙くず、廃プラ・ガラス・金属、太陽光パネル など

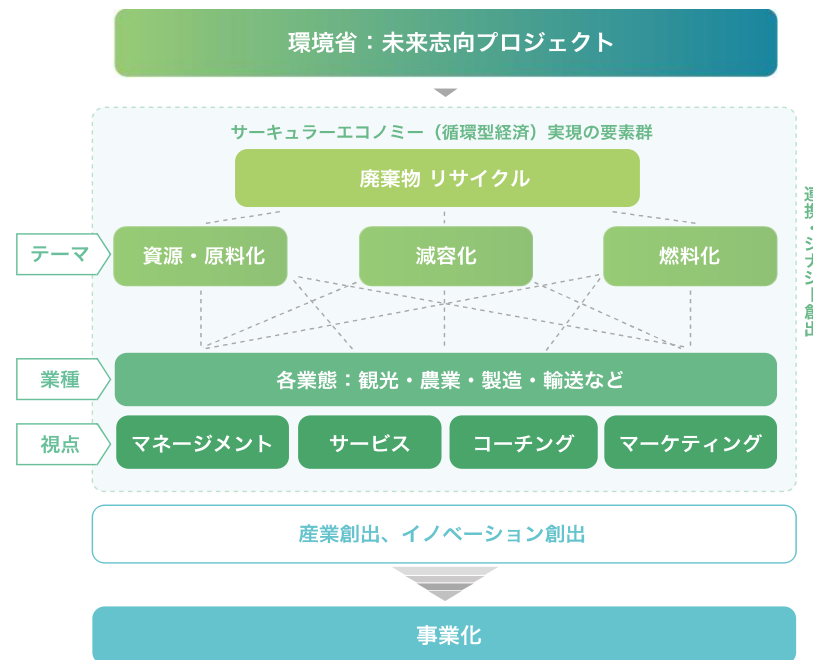
**脱炭素技術(廃棄物利用)を活用した生活必需品や施設へ導入できる新アイテム開発を目指し生活導線に存在する多くのアイテムや必需品の脱炭素化を実現化。**

# 環境省未来志向PJ 脱炭素場×廃棄物WG マトリクス図

1. 廃棄物の資源・原料化、減容化、燃料化などをテーマとして議論を進める。
2. テーマで議論された内容を業態に落とし込み、実用可能性の議論を進める。
3. 実現可能性を高める4つの視点を加味した議論を進め、5W1Hを整理して、モデル事業をビルドする。

## 【視点整理】

- マネージメント…目標設定、人材育成、チームビルド
- サービス…社会奉仕、価値優位性
- コーチング…社会実装伴走、主体的行動原理
- マーケティング…市場創造、需給情報把握、価値最大化



## 1stステップ(R7年2月から4月)

### 【事業スケジュール】

- 脱炭素技術情報共有
  - 参画企業技術プレゼン
- 脱炭素技術活用事例紹介
  - 各社:実施事例紹介
  - 取扱い廃棄物の確認
- ターゲット補助金及び自走モデル検証
  - デコ活を活用したモデル事業考察
  - 自走化に向けた議論開始
  - 検討テーマプレスト

## 2ndステップ(R7年5月から9月)

- 検討テーマ案
  - 防災→CO2・メタン吸収材活用
  - 農業→廃棄米活用、コンポスト活用
  - メディア→廃棄紙活用、バイオごみ袋広告活用
  - 輸送→脱炭素ロジ用品開発
  - 推進観光→サービス連携インセンティブ検証
- 技術交流・展示会実施検討
  - 福島県浜通り開催
    - 浪江町工業団地候補地
  - 福島県中通り開催
    - 福島市工業団地候補地

## 3rdステップ(R7年10月からR8年1月)

- カーボンクレジット検証
  - CO2排出権の現状把握・検証
- モデル事業の申請・予算化
  - 補助金・研究費への申請
  - 自走化に向けたデジタルマーケティング
- 脱炭素事業への理解醸成プロモーション
  - 教育機関への情報提供
  - 脱炭素商品の製作体験
  - カーボンクレジットの理解

# 復興庁ご報告



復興庁

Reconstruction Agency

復興・創生 その先へ

# 福島イノベーション・コースト構想 について

令和7年2月  
復興庁

# 1. 福島イノベーション・コースト構想の概要

- 2014年6月、浜通り地域等に新たな産業基盤の構築を目指す「福島イノベーション・コースト構想」を取りまとめ（福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会）。2017年5月、福島復興再生特別措置法を改正し、構想を法律に位置付け。
- 本構想においては、例えば廃炉作業のためのロボット技術等が他の課題解決にも活用され、育成された専門人材が新技術・新産業の牽引役となり、地域の復興を支えることを企図している。加えて、地域のエネルギーや農林水産業等のプロジェクトを苗床として、新たな研究・産業拠点を整備し、将来的な新技術や新産業の創出に繋げていく。

## 重点6分野

### 廃炉

#### 国内外の英知を結集した技術開発

- 東京電力福島第一原発の廃炉を加速するための国際的な廃炉研究開発拠点整備（楡葉町、富岡町、大熊町）



楡葉遠隔技術開発センター

### ロボット・ドローン

#### 福島ロボットテストフィールドを中核にロボット産業を集積

- 陸・海・空のフィールドロボットの使用環境を再現した福島ロボットテストフィールド（南相馬市、浪江町） ※R7年4月にF-REIに統合予定



### エネルギー・環境・リサイクル

#### 先進的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ

- 再生可能エネルギーや水素エネルギーを地域で効率的に活用するスマートコミュニティを構築



（出典）東芝エネルギーシステムズ（株）

福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）（浪江町）

### 農林水産業

#### ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生

- ICTを活用した農業モデルの確立「トラクターの無人走行実証」



### 医療関連

#### 技術開発支援を通じ企業の販路を開拓

- 医療関連産業の集積を図るとともに、企業等の新規参入を促進



ふくしま医療機器開発支援センター（郡山市）

### 航空宇宙

#### 次世代航空モビリティの開発や関連企業の競争力強化

- 航空宇宙関連産業の技術交流や商談、参入する企業の支援等を実施



ロボット・航空宇宙フェスタふくしま

## 具体的取組

### ①産業集積

- ・ビジネス創出支援
- ・技術開発・実用化支援 等

### ②教育・人材育成

- ・イノベ構想と連動したキャリア教育
- ・トップリーダー育成 等

### ③交流人口の拡大

- ・地域と連携した新たな魅力創造等
- ・地域による来訪者の促進 等

### ④情報発信

- 「東日本大震災・原子力災害伝承館」を起点とする情報発信 等

## 取組の3つの柱

①「あらゆるチャレンジが可能な地域」

②「地域の企業が主役」

③「構想を支える人材育成」

## 2. 福島イノベーション・コースト構想の法的位置づけ

### 福島復興再生特別措置法

2017年5月の改正で「イノベ構想」を法律に位置づけ。

○具体的な改正内容は、下記の通り。

①福島県知事が作成する、「福島復興再生計画」において、次の記載を可能とする

- ・「福島イノベーション・コースト構想」の取組を推進する区域（「福島国際研究産業都市区域」）
- ・本区域において推進する取組

②上記記載を含む福島復興再生計画について内閣総理大臣の認定を受けた場合、次の特例を措置

- ・中小企業者の計画の下での研究開発の成果について特許料等の軽減
- ・ロボットに係る新製品・新技術の開発促進のため国有試験研究施設（注）の低廉使用  
（注）国土交通省国土技術政策総合研究所、防衛装備庁航空装備研究所

③福島イノベーション・コースト構想に係る取組の促進のため国、福島県、市町村、事業者等の連携の強化に必要な施策を講じる

④「原子力災害からの福島復興再生協議会」の下に、分科会を設けることを可能とする

→これを活用し、福島イノベーション・コースト構想推進分科会を設置

### 福島復興再生基本方針

- ・福島特措法第5条に基づき、政府が策定。
- ・原子力災害からの福島の復興及び再生に関する施策の総合的な推進を図るための基本的な方針。

### 福島復興再生計画

- ・福島特措法第7条に基づき、「福島復興再生基本方針」に即して、福島県知事が作成し、内閣総理大臣の認定を申請。
- ・原子力災害からの福島の復興及び再生を推進するための計画。
- ・イノベ構想の取組を推進する区域、及び本区域において推進する取組が記載されている。

### 福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真

- ・イノベ構想に係る取組の推進に向けた、産業発展のビジョン。
- ・イノベ分科会の議論を経て、2019年12月9日に、復興庁・経済産業省・福島県の3者で取りまとめたもの。
- ・本青写真の内容を反映させ、2020年5月に「福島復興再生計画」の変更が内閣総理大臣によって認定された。

内容を  
反映

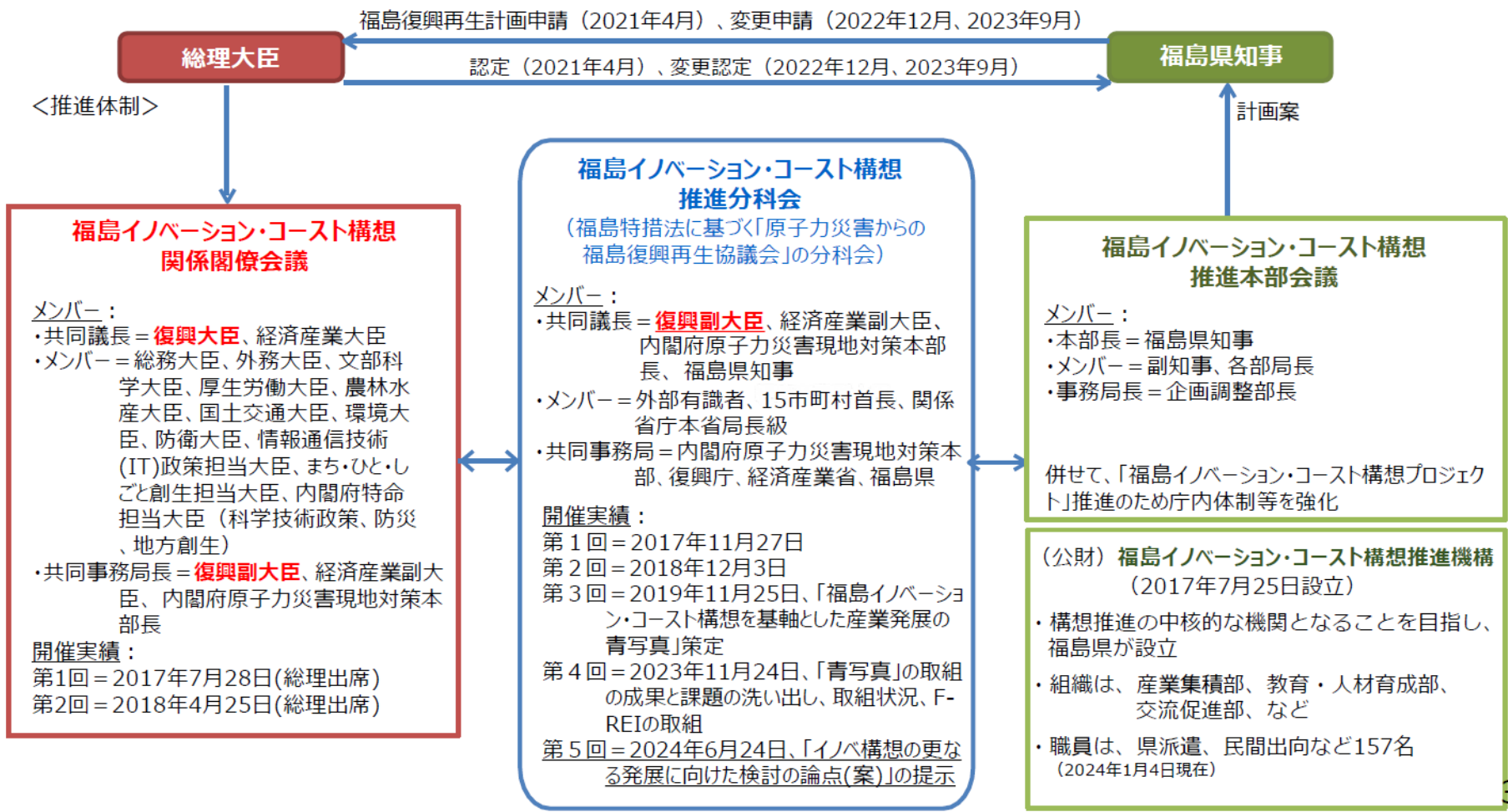


### 3. 福島イノベーション・コースト構想の推進体制

「福島復興再生基本方針」（2021年3月26日 閣議決定）（抜粋）

第8 2（3）福島イノベーション・コースト構想に係る取組の推進

福島イノベーション・コースト構想の実現に向けた多岐にわたる課題を政府全体で解決し、関係省庁による具体的な連携体制の構築等を進めるため創設した「**福島イノベーション・コースト構想関係閣僚会議**」や、関係省庁、県等が参画し、構想の推進に関する基本的な方針を共有していく場として「**福島イノベーション・コースト構想推進分科会**」、福島県庁内が一体となって構想の取組を加速するための「**福島イノベーション・コースト構想推進本部会議**」による検討体制を構築した。



(参考) 避難指示区域の解除

- 2014年4月 田村市 ※帰還困難区域を除く
- 2014年10月 川内村 (旧避難指示解除準備区域)
- 2015年9月 楢葉町
- 2016年6月 葛尾村、川内村
- 2016年7月 南相馬市
- 2017年3月 飯舘村、川俣町、浪江町
- 2017年4月 富岡町
- 2019年4月 大熊町
- 2020年3月 双葉町 (避難指示解除準備区域)  
双葉町・大熊町・富岡町の帰還困難区域の一部解除

## 4. 福島イノベーション・コースト構想の経緯



# 5. 福島イノベーション・コースト構想の重点6分野の主要拠点・主要プロジェクト

## 廃炉

### 国内外の英知を結集した技術開発

■ 廃炉作業などに必要な実証試験を実施する「福島遠隔技術開発センター」(楡葉町)



■ 「大熊分析・研究センター」(大熊町)



■ 「廃炉環境国際共同研究センター」(富岡町)



## ロボット・ドローン

### 福島ロボットテストフィールドを中核にロボット産業が集積

■ 陸・海・空のフィールドロボットの大規模実証拠点(南相馬市、浪江町)



■ 無人航空機を用いた橋梁点検サービスの実証実験



## エネルギー・環境・リサイクル

### 先進的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ



■ 世界有数の再生可能エネルギー由来の水素製造実証拠点「福島水素エネルギー研究フィールド」(浪江町)で製造した水素を県内各所の燃料電池や水素ステーションに供給

福島水素エネルギー研究フィールド (FH2R) (浪江町)

## 農林水産業

### ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生

■ ICTやロボット技術の開発・実証を進め、これらを取り入れた先進的な農林水産業を全国に先駆けて実施



■ 洋上パイプタブレット端末による漁獲情報収集システム等、ICTを活用した漁業操業支援技術を開発



## 医療関連

### 技術開発支援を通じ企業の販路を開拓

■ 県立医科大学「医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター」の研究成果を活用して浜通り企業等への支援を行う「浜通りサテライト」を令和3年11月に開設(南相馬市)

■ 医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する「ふくしま医療機器開発支援センター」(郡山市)



## 航空宇宙

### 次世代航空モビリティの開発や関連企業の競争力強化

■ 福島ロボットテストフィールドに研究室を持つテトラ・アビエーション(株)による空飛ぶクルマの開発

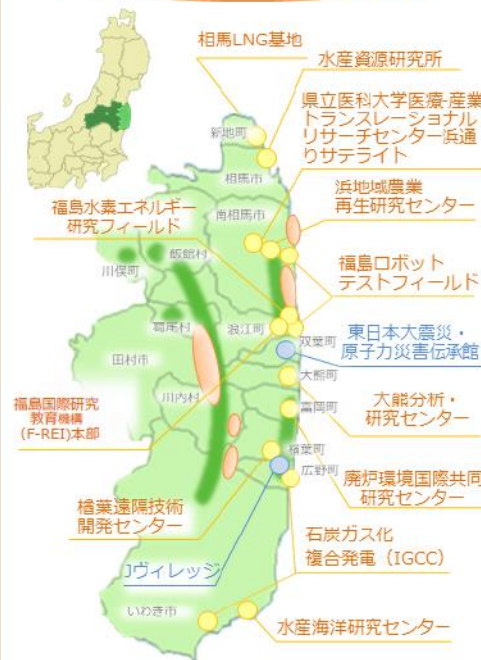


■ 県内企業の取引拡大等を目的に開催している製品・技術を紹介する「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2022」



(R4.11ビッグバレットふくしま)

## 主要プロジェクト 主な施設マップ



## 6. 福島イノベーション・コースト構想の実現に向けた4つの取組

### ①産業集積

企業誘致と地域内外企業の事業化を支援

- 全国随一の優遇制度や立地環境をPRするための企業立地セミナー



- 事業化に向けて「起業・創業」を志向する企業や個人等が自社の事業計画等のプレゼンテーションを行うスタートアップピッチイベント (Fukushima Tech Create 事業)



### ③交流人口の拡大

人口が減少した浜通り地域等の交流人口拡大

- イノベ構想に共感し、浜通りの地域等との絆を結んでいただくため、企業や若者呼び込み交流事業を実施。



- 地域住民向け、福島イノベ構想の取組を身近に感じていただくための「見える化セミナー」を実施。



### ②教育・人材育成

浜通り地域の未来を担う若い力を育てる

- 「復興知」事業  
全国の大学、高専の福島県内における地域住民のための活動を支援。



- 「ロボット・プログラミング体験講座」  
福島ロボットテストフィールドにて、福島県内の小中学生を対象として実施。



#### ■ 小高産業技術高等学校

- 文部科学省の「マイスター・ハイスクール事業」の指定を受け、産業界と連携した産業人材育成システムや工業、商業の学科連携により、高度な知識と技術を身に付け、新たな産業に対応できる人材の育成に取り組む。



#### ■ ふたば未来学園中学校・高等学校

- 文部科学省の「WWL(ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業」の拠点校として、グローバル・リーダーを育成。ふるさと創造学や未来創造探究、トップアスリートの育成なども実施。

### ④情報発信

複合災害の記憶と教訓を将来へ引き継ぐ

- 令和2年9月に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館(伝承館)は、令和5年6月に累計来館者20万人に到達。令和5年3月には伝承館として初めての「学術研究会」を開催するなど調査・研究活動も進展している。今後も原子力災害を中心に収集・保存した資料に加え、調査・研究による成果を展示や研修に活用し、震災の記憶の風化防止のための情報発信を強化するとともに、防災・減災に役立てていく。



東日本大震災・原子力災害伝承館

伝承館内部の様子



# 環境省ご挨拶

第2部にご参加されない方のみ、ご回答ください

令和6年度 第2回「脱炭素×復興まちづくりプラットフォーム」総会

～出席者アンケート～



二次元コードがうまく読み取れない方は、事務局にお申しつけください

**休憩**

**※13時45分まで会場にお戻りください※**

# 基調講演



# 浪江水素ステーション

# 自己紹介

前司 昭博 ※浪江町生まれ、育ち、現在在住

【名字】前司 【読み】ぜんじ【全国人数】 およそ100人

株式会社伊達重機（浪江水素ステーション） 代表取締役

株式会社浪江商事 代表取締役

【地域団体】

浪江町商工会青年部、浪江町消防団、富岡ロータリークラブ

【地域団体経歴】

一般社団法人浪江青年会議所 2019年理事長

浪江町商工会青年部 2021～2022年部長











# なぜ、原発事故収束に入ったか

取引先の顔の見える人との繋がり  
原発は昔から地域経済を支えていた  
避難して、TVを見て、

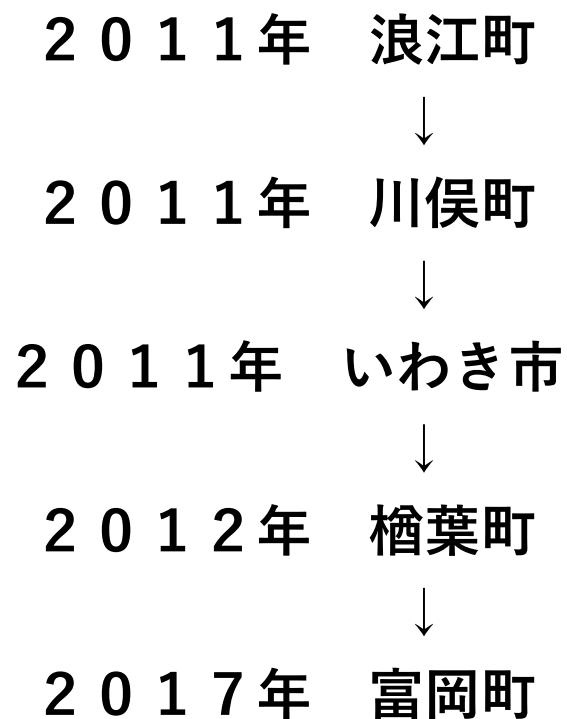
皆が帰りたと言った

自分のできる力があつた。

郷土愛があつた（地域団体に学ぶ）



# 会社所在地移転



# 住居移動

2011年 浪江町

2011年 川俣町

2011年 楢葉町

2011年 いわき市①

2011年 いわき市②

2017年 富岡町

2019年 浪江町

# 震災当時の地域活動



# 浪江焼麺太国 <浪江町商工会青年部> (なみえ焼そば)



# なみえ焼そばで出店した時の 風評被害（実害）

安全なものを提供していたが、

福島のは食べられないと聞こえると言われる

他

福島の桃がサービスエリアで捨てられる

視点の違い

浪江町→双葉郡→浜通り→福島県→東北地方→東日本

# その他の風評被害

## 避難者への差別

「避難者は帰れ！」と書かれる

車へのいたずら

給油拒否

学校でこどもがいじめられ、お金を巻き上げられる

## 生産物への被害

物が売れない

買い叩かれる

# 浪江焼麺太国の活動歴

2008年 設立

2011年 東日本大震災

町民の絆を繋ぐために活動

風評被害の払拭

震災風化の防止

まちのこし

2013年 B-1グランプリでゴールドグランプリ

2017年 浪江町避難一部解除で、  
アンテナショップオープン

# 環境省様との出会い

## 第1回「FUKUSHIMA NEXT」表彰制度

奨励賞 前司 昭博（浪江町商工会青年部 部長）

浪江町産玉ねぎを使用した料理の開発を通じた風評払拭と浪江町への地域貢献

## 第2回「FUKUSHIMA NEXT」表彰制度

特別賞 前司 昭博（株式会社伊達重機 代表取締役）

相双地区初となる定置式商用水素ステーションを開業。FH2Rからの再生可能エネルギーから作られる水素供給により、水素エネルギーの地産地消を行っている。



# 株式会社伊達重機

住 所：福島県双葉郡浪江町大字酒田字上原18-7

創 業：1985年4月

営業内容：クレーンリース、一般貨物運送事業、  
カーリース、ビジネスホテル業

売上高：18億円

社員数：67名

きっかけ：社長がJCIでSDGsを学ぶ

SDGsへの取り組みたい

今後、重機は電気ではなく水素

FH2Rの立地、浪江町水素タウン構想に賛同

地元企業で誰も手をあげない



# 浪江水素ステーション

※当水素ステーションは、日本水素ステーションネットワーク合同会社（JHyM）との共同事業です

**住 所**：福島県双葉郡浪江町大字川添字上加倉67-1

**水素供給設備** 水素供給能力：中規模

供給方式：オフサイト

**敷地面積**：1,520m<sup>3</sup>

**事業開始日**：2022年12月12日

**営業日**：日曜日・祝日を除く

（自社カレンダーによる）

**ステーション機器メーカー**：岩谷産業株式会社

**水素仕入先**：株式会社巴商会、NEDO



# 特徴

- ・併設でなく、単独設置。
- ・F H 2 R からグリーン水素を仕入れて提供している。

弊社 ↔ 浪江町役場 ↔ N E D O

市場を壊さないため、仕入単価は市場相場

- ・F H 2 R が立地する、浪江町が水素タウン構想を掲げているため、水素関連（実証事業、視察）が活発
- ・浪江町では、居住人口2, 0 0 0人で、F C Vが約7 0台が走っている（弊社F C Vリース5 0台含む）

# 供給状況 & 収支

口頭説明

# 問題点

販売 車が少ない、増えない

仕入 水素代が下がらない

仕入れ先が遠い

点検整備 定期点検費用が高い

定期点検で2週間ストップする

故障個所によるが修理まで2週間かかる場合がある

社員 高圧ガスの資格が特殊で所有者が少ない

# 自立した経営を目指して



運搬費を圧縮するために、  
トレーラーを購入し、自社  
で運搬

(2023年7月)

# その他取組①

オープン前に、中古のオリパラ仕様ミライを50台購入し、事業者向けにカーリース。

(2022年1月)

水素社会実現による持続可能な地域へ

## 浪江水素ステーション

SDGsへの取り組み

- CO2排出ゼロのFCVで脱炭素社会を目指す
- 持続可能な水素エネルギー普及を推進

SDGsとは、2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」のこと。

2022/12/12 **OPEN**

水素1kg 1,650円 (税込)

●営業時間 9:00~18:00  
●定休日 日曜日、祝日  
●TEL 0240-25-8001

FCV(Fuel Cell Vehicle)の弊には、燃料電池自動車、水素からの電気も供給しを行います。CO2 排出ゼロで走行する環境にやさしい自動車です。

トヨタ **MIRAI** ご試乗 (30分無料)

ご試乗、アンケート回答で福島県産(鶏肉卵産)リースも行ってあります。※月66,000円(税込) 新車・中古車購入のご相談も承っております。

※開費は、満油5kg、走行距離で約500kmのFCVで、ガソリン車換算リッター14.5km。

住所 福島県双葉郡浪江町川添字上加倉67-1  
アクセス 浪江ICから車で3分 国道114号線沿い ローソン浪江下加倉店様向かい  
決済方法 クレジットカードのみ

※開業の金額内は予告なく変更になる場合がございます。

**D株式会社伊達重機**  
フレックシブリースー般貨物運送業・水素ステーション運営  
浪江水素ステーションは、株式会社伊達重機と日本水素ステーションネットワーク合同会社(JNHM)との共同事業です。

### 水素社会実現に向けて

世界中でゼロカーボン(CO2などの温室効果ガスを削減し、森林の吸収分と相殺して、実質的に排出量をゼロにすること)社会を目指しています。その中で、CO2を排出しないクリーンなエネルギーである水素が大きく注目されています。

取り組まないとうなる?

水素の「地産地消」を方針として浪江町のFHRから生産されたグリーン水素を一部供給しています。

上記等の理由から、食料不足、健康障害、生計崩壊の可能性がります。

今、社会が変わり始めています

火力、原子力 → 再生可能エネルギー  
ガソリン車 → EV・FCV

なぜ、水素なのか?

- 水素は使用時にCO2を出さない。
- 水素は無限に作り出すことができる。
- 水素は長距離輸送、長期保存できる。

FCVとは、水素で発電した電気でモーターを動かして走る燃料電池自動車です

FCVのメリット・デメリット

メリット

- 排出ガスを出さない。
- 走行時の騒音が少ない。
- 短時間で燃料を補給できる。

デメリット

- 自動車の価格が高い。
- 水素ステーションが少ない。

※1 充電の時間は充電の種類であり、内容を確認するものではないです。 ※2 FCVの価格については、販売店にご確認ください。

事業者、地域住民向けに30分無料試乗。

(オープンから)

## その他取組②



イベント主催で、浪江町様とトヨタ自動車様と連携して、水素電源車から会場へ電気を供給。

(随時)

浪江町他近隣市町村のイベントにてブース出展。

FCV展示とチラシ配布

(随時)





## その他取組③

浪江町内で行われる実証実験に保安管理やガス取扱で業務委託を受注する

【NEDO実証】

福島水素充填技術研究センターの保安・運用業務の委託

(2023年7月)

【浪江町実証】

浪江水素サプライチェーン実証運用

(2023年9月)

## 【NEDO実証】

福島水素充填技術研究センターの保安・運用業務の委託

(2024年4月)

## 【環境省実証】

水素民生・産業利用サプライチェーン構築及び需給調整実証事業

(2024年10月)

既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・実証事業

(2024年12月)

# その他取組④

短期のビジネス・観光向けに浪江駅前でFCVレンタカーを開始。水素の町をPRするために、駅前駐車場に常時FCVを展示予定。

(2023年9月)

水素のまち 浪江町 水素を身近に気軽に

## 浪江FCVレンタカー

SDGsへの取り組み

- CO<sub>2</sub>排出ゼロのFCVで脱炭素社会を目指す
- 持続可能な水素エネルギー普及を推進

2023/9/27\*

# OPEN



浪江町へ、ビジネス・観光で来たら、空気を汚さない。

\* FCVは走行時、CO<sub>2</sub>排出ゼロ。浪江水素ステーションの水素は地産地消モデルとして、浪江町のFH2Rから生産されたグリーン水素を一部供給し、燃料も走行もCO<sub>2</sub>排出ゼロ。

3時間

5,000円

6時間

8,000円

12時間

9,000円

24時間

11,000円

浪江町を  
楽しもう!

30分

無料

※30分無料試乗のみ、浪江水素ステーションで貸出返却になります。

**住所** 福島県双葉郡浪江町権現堂新町17-1 (ホテルなみえ西側テナント)

**電話番号** 090-6385-1159



浪江駅から徒歩約4分

**予約方法** 電話にてご予約ください。

**営業日** 日・祝以外 (カレンダーによる)  
※退却のみ日祝対応プランあります。

**営業時間** 9:00~18:00

●燃料代について  
ご出発時水素ガス満タンで貸出しますので、ご返却前に浪江水素ステーションで充填してください。  
※燃料は別途清算となります。(浪江水素ステーションはクレジットカード決済のみとなります。)

●支払い方法について  
前金制・クレジットカード決済のみとなります。企業様は別途ご相談承ります。

浪江FCVレンタカー並びに浪江水素ステーションは、株式会社伊達重機の事業です。



## その他取組⑤

ご当地ヒーロー企画で、水素について理解を深める活動の実施。

(2021年11月)



# その他取組⑥

## 福島県水素ステーション連絡協議会設立

(2024年3月)

正会員 根本通商株式会社

ふくしま hidro サプライ株式会社

佐藤燃料株式会社

株式会社伊達重機

賛助・特別会員 福島県、他38会員



**（目 的）**

**第3条**

**本会は、福島県の水素社会実現の一助とすることを目的とする  
とともに、その目的に資するため、次の事業を行う。**

**水素ステーションの情報提供**

**催事等での水素ステーションPR**

**水素関連実証実験等への協力**

**人材育成**

**先進地視察**

**行政への政策提言（保安業務及び補助支援制度等）**

**前各号に付帯する一切の業務**

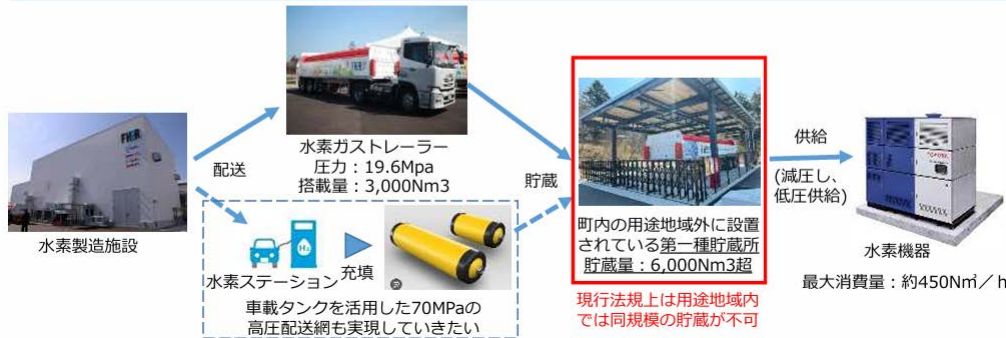
# 浪江町

## ※浪江町出典

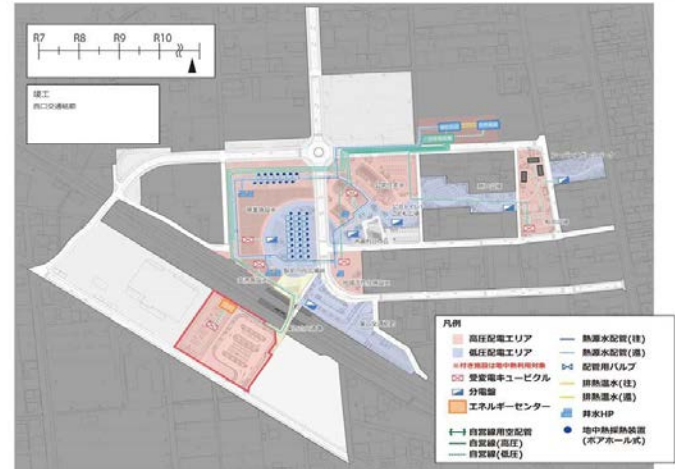
### 実現させたい事業イメージ

- **概要**：市街地での水素活用を推進するための**用途地域内での水素貯蔵**
- **エリア**：福島県浪江駅周辺（**第一種住居地域及び商業地域**）
- **体制**：浪江町（浪江駅周辺の整備主体、水素需要家）  
 福島県（県内水素利活用を推進、一部許可権者）  
 (株)日建設計（駅周辺整備事業のエネルギー計画・設備設計等を担当）  
 ※ 浪江町水素関連事業者等連絡会(構成企業20社超)とも適宜連携

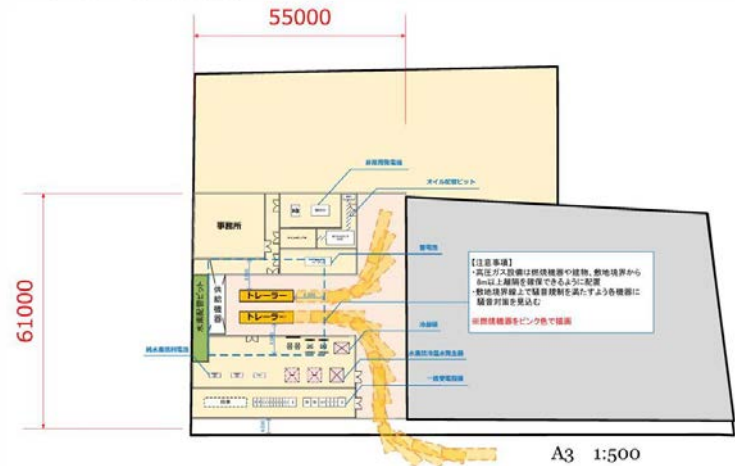
- 2020年代後半に「まちびらき」を予定している浪江駅周辺整備エリアにおいて、**450Nm<sup>3</sup> / h程度の水素消費**を想定しているが、当該エリアは「第一種住居地域」、「商業地域」の用途地域に指定されており、建築基準法により**水素貯蔵施設の貯蔵上限量が350Nm<sup>3</sup>または700Nm<sup>3</sup>**と定められている。
- **高圧ガス保安法等の技術基準による安全性の担保を要件として、用途地域内での水素貯蔵上限規制を緩和**することで、**水素エネルギーの大規模民生利用のきっかけ**としていきたい。



エネルギーセンター概要



エネルギーセンター配置計画



## 今後の戦略①

水素ステーション事業としては、車が増えないことにはどうにもならず、水素単価の低下も難しい。

トレーラー、カードルを購入し、運送事業。

有資格者を増やし、保安管理者を派遣。（駅前開発、F—R E I）

水素事業全体で黒字化、利益を出す。

水素製造は、F H 2 Rがグリーン水素なので求めない。

水素ステーションの電力を再エネ100%にする。

水素ステーション水素供給を車だけでなく、ドローンや住宅へ。

視察や取材が多く、直接の売上に繋がることを考える（水素ステーション敷地内はFCV以外乗り入れ禁止で、レンタカー。）





# 今後の戦略②

水素ホテル（浪江水素ステーションから供給）  
水素バーナーを使った飲食店

- ・ 除染した土地でつくられたものを提供
- ・ ご当地グルメの提供
- ・ 失われそうな郷土料理の継承
- ・ 地産地消



**2.8.sat  
GRAND OPEN!**

和ダイニング  
**なみえアベンジャーズバル**

郷土料理・ひゅうろん餅  
膳前もの・しらすおろし  
ご当地グルメ・なみえ焼そば  
浪江町産野菜・季節の惣惣

※写真はイメージです。メニューの一部を掲載しております。季節によって提供できない場合がございますので、ご了承ください。  
コンセプト和風ダイニングバー。浪江町の美味しい!楽しい!怪しい!?を提供いたします。

TEL : 050-8883-8521 席数 : 24席  
住所 : 浪江町大字幾世橋字六反田7-2 まち・なみ・まるしえ内  
営業時間 : 17:00~23:00 (LO22:30) 定休日 : 日・月・祝

※詳しい営業情報はSNS又はTELにてご確認ください。  
店内レンタルショーケースで、なみえアベンジャーズグッズや特注大相馬焼  
等販売いたします。

ご支援はこちら!

**1ドリンク無料券**  
お一人様一回限りとなります。  
料理と一緒に注文される方に限ります。  
使用時は、注文前にお名前を記入してお渡しく下さい。

お名前 : \_\_\_\_\_  
使用期限 4月30日(金)まで

スタッフ募集中!  
レンタルショーケース出品者募集中!  
クラウドファンディング挑戦中!

facebook X Instagram

# 脱炭素×復興まちづくりプラットフォームの皆様へ

被災12市町村等において、脱炭素と復興の両立するためには、

- ・ 業務車をFCVにしてください。
- ・ 地元の人を雇用してください。
- ・ 地元に住んでください。
- ・ 地元企業を使ってください。（商工会所属事業所等）
- ・ 実証構造物を建設してから、地元で協力を依頼するのではなく、建設する所から依頼してください。（被災12市町村の企業で活発なのは建設業関連です。）

# 最後に

被災地の人間として、夢は復興です。

もう元には戻りません。

今あるのは、目の前にいる人たちと、  
脱炭素を通して、最先端の魅力あふれる  
ふるさとにすることが夢です。

今後とも宜しくお願いいたします。

# 全体ディスカッション

# ①脱炭素×観光による地域振興WG

# 脱炭素×観光による地域復興WG

## 次年度目標

次年度は、以下の実証実験を実施します。通年のメディア運用を通じて、自治体、地元企業、地元団体、他WGとの連携を進めます。

- ・12市町村を対象とした脱炭素の取り組みを福島県内外に広めるためのメディアを企画、公開、運営します
- 12市町村の観光における情報収集を、AI導入により効率化する仕組みづくり
- 12市町村の観光における情報を、AI導入やデジタルマーケティングにより拡散する仕組みづくり
- 本メディア運用を通じた、ツアー企画、イベント連動など、シナジー効果を通年計測する

## 次年度計画

- 2~3月：【メディア開発】一次開発
- 4月中：【メディア公開】メディア一次公開（福島県外向け）
- 4~6月：【メディア説明】関係者へ説明、掲載協力打診
- 6月：【ツアー企画】（予定）水素ツアー（孫の手トラベル様）実施
- 6月：【コンテンツ企画】（予定）ふくしま浜街道トレイルご紹介など
- 6月：【メディア公開】二次開発（福島県内向け）
- 8~9月：【メディアヒアリング】関係者へメディアについての現状ヒアリング
- 10月：【メディア公開】三次開発（AI機能のバージョンアップ）

## 脱炭素×観光による地域復興WG

### 課題

(記載内容)

現状抱えている/将来的に発生が予想される課題について具体的にご記載ください。

1年間の実証実験期間の、地域との連携

今年以降のメディア運用について

### 対応仮説・支援を期待すること

(記載内容)

課題に対する対策仮説や支援を期待することをご記載ください。

福島県様など、ご紹介自体は完了しているため、今後期間に課題が発生した際に、都度相談させていただければと思います。PFよりの告知なども引き続きご協力いただけますと幸いです。

実証実験の結果をふまえて、自治体とより連携した座組に徐々にスライドできればと考えております。その際には、是非、サポートをよろしくお願いいたします。



# 脱炭素×観光による地域復興WG

地域記事を専用DBに収集し更新する仕組みを構築し、目的別にA（県外や海外向け）B（市町村むけ）それぞれのニーズに合わせて記事をキュレーションする。

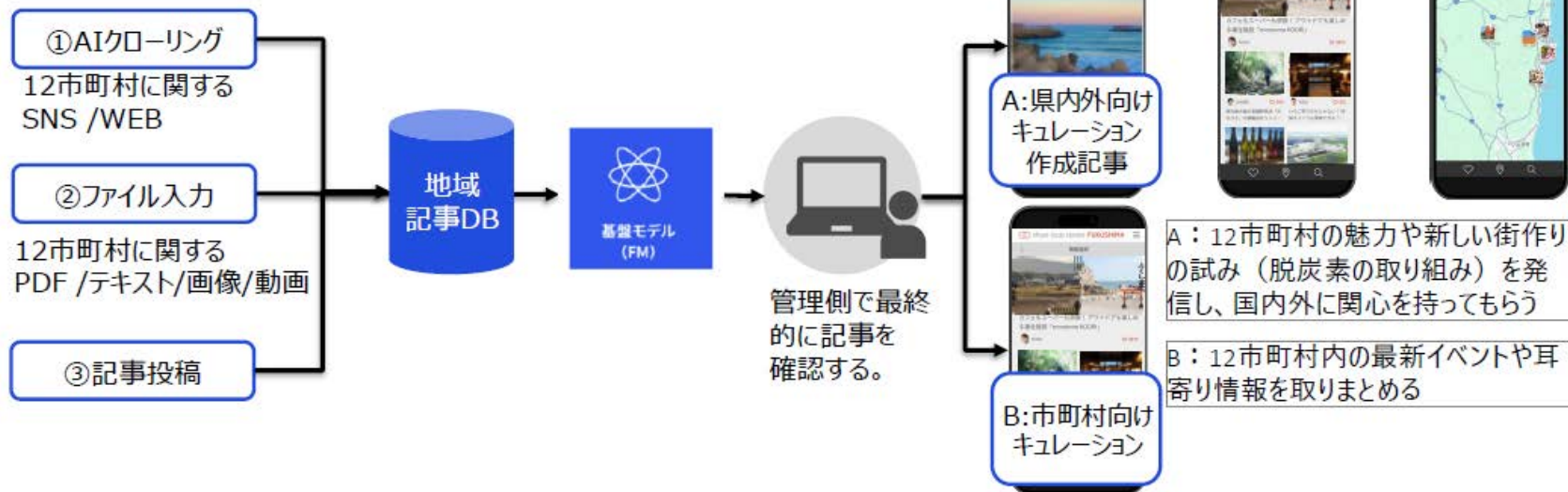
地域の情報収集の効率化や自動化

地域の目的別に情報を配信、拡散する

記事情報収集

記事掲載判断

記事掲載



# 脱炭素×観光による地域復興WG

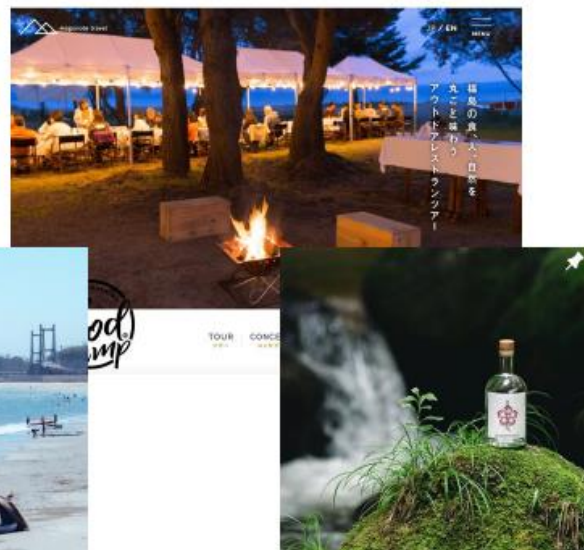
自然や食が豊富な福島12市町村の魅力や未来志向の活動（脱炭素など環境問題や最新技術）について関心が集まるようにUI/UXを設計する。

## 福島・浜通りの魅力

### 自然を通じて



### 食を通じて



### 環境や社会課題を通じて



ふくしま浜街道トレイル、浜通りサイクリング、浜通りブルーツーリズム、ふくしま浜通りキャンプ、そのほか、アウトドアツアーやアクティビティを中心に、温泉や絶景にフォーカスした楽しみ方を提案

12市町村選りすぐりの食品や産物、日本酒、ワイン、ジンなどの酒造メーカーなどをご紹介。フードキャンプをはじめとして、福島の食が楽しめる、おすすめ店舗やイベントやツアーなど、食を通じた楽しみ方を提案

サステナビリティツーリズムやスタディツーリズムなど、福島12市町村の特徴を生かして、環境や社会課題についての理解を深めるイベントやツアーを提案

# 脱炭素×観光による地域復興WG

郡山観光交通グループ

孫の手トラベルオリジナルツーリズム

## 水素ツーリズム®

世界でも類を見ない複合災害を経験している福島では、脱炭素社会に向けたさまざまな取り組みが始まっています。水素ツーリズム®は、孫の手トラベルオリジナルの新しいツーリズムです。福島からスタートした水素をはじめとする最先端の脱炭素の取り組みから学び、具体的なアクションをより「自分ごと」として考えるきっかけづくりを提供します。



### 水素ツーリズム®でできること



脱炭素の取り組みについて取引先で話題に上ることが多く、まず現場を知って学びを深めたい！



世界的な成長産業である新エネルギーに対して、現状と課題感をキャッチアップしたい！



カーボンニュートラルの達成について企業としてできるアクションを考えたい！



震災と原発事故を乗り越え、世界に先駆けて新エネルギーの普及に取り組む福島を体感

### 水素ツーリズム®企業・団体向け 研修モニターツアー開催概要

実施時期：6月上旬平日（木・金）の1泊2日

募集人員：15名程度

移動手段：貸切バス

集合解散：郡山駅集合／浪江駅・郡山駅解散

参加対象：主に首都圏企業・団体にお勤めの方

○お勤め先でスタッフ研修をお考えの方

○水素や脱炭素社会への興味をお持ちの方

○ツアーの様子をSNS等で発信していただける方

○アンケートにご回答いただける方

○撮影した写真・動画を弊社及び浪江町が作成する

媒体等に使用することにご了解いただける方

参加料金：未定

次世代エネルギー水素を体感して  
脱炭素社会の未来を考えよう！！

#### 主な視察先（予定）

- ・FH2R
- ・福島県環境創造センター
- ・浪江町役場
- ・棚塩産業団地
- ・福島いこいの村なみえ
- ・福島ロボットテストフィールド
- ・浪江滑走路（水素ドローン）

他にもFCVの乗車、運転体験も予定しています。

※2025年2月4日現在の予定です。



Magonote travel

## ②脱炭素物流検討WG

# 脱炭素物流検討ワーキンググループ

## 次年度目標

- 物流課題解決方策（案）の再検討の後、自治体へのヒアリング/意見照会を行い、方策ごとに実施する際の課題、メリット・デメリットを整理する。
  - 課題の整理については関連する法規制の情報が必要となり、事務局と連携した調査を行う。
  - 実証に向けては興味関心が高い事業者の情報が必要となり、地域の事業者や他WGの動向等の情報収集を行う。

## 次年度計画

- 4-5月：
  - 脱炭素物流WGのPF成果物案（イメージ）、R7全体スケジュール案作成。
  - 課題整理（事務局への調査依頼）、他のWGの連携案・打診。第1回WG開催。
- 6-7月：他のWGとの情報交換。自治体ヒアリング実施。
- 8-10月：調査結果、自治体ヒアリングに基づく検討。PF成果案のブラッシュアップ。第2回WG開催。
- 11-12月：フォローアップ。成果物案の最終化。
- 1-2月：第3回WG開催。

\* 実証を検討する場合は、参加メンバーとの連携、情報交換も必要となることから4-5月に計画を再検討予定。

# 脱炭素物流検討ワーキンググループ

## 課題

解決方策を検討する際に人口や事業者数の回復状況に依存することから、地域の最新の情報が必要。

事業者の物流について、ヒアリングによって大きな流れは確認できたが、事業者数、位置、業種、配送径路、物量などの基本的な情報が不足。

WGの方針として自治体や地域を中心とした解決方策を検討しているが、自治体へ提示するメリットが小さく意義を感じてもらえない。

## 対応仮説・支援を期待すること

2024年度はヒアリングによってお伺いすることができたが、ただし、ヒアリングが地域の負担になっていないか懸念。他WGのヒアリング結果など関連する最新情報があれば共有していただきたい。

地域の事業者に関する情報を事務局へ確認し、無い場合は物量を推測する等の対応を検討する。

地域課題の同時解決、脱炭素関連で利用可能な補助金など、自治体のメリットとなりうる情報を収集する。

### ③帰還困難区域での脱炭素化事業検討WG

# 帰還困難区域での脱炭素化事業検討WG

## 次年度目標(案)

(帰還困難区域を対象として)

- 短期的視点 : 小さいことでも、“初手として”実現できそうな活動への挑戦(気運づくりと共に)
- 中長期的視点 : 地域の振興・発展に向けた、将来の土地活用に関するロードマップ(案)のとりまとめ

## 次年度計画(案)

春	<ul style="list-style-type: none"><li>・検討アイデアの整理</li><li>・現地視察（検討の参考となる他事例の視察・ディスカッション）</li><li>・夏の「初手イベント」に向けた実施計画の作成（役割分担、タスクリスト作成など）</li></ul>	
夏	<ul style="list-style-type: none"><li>・地元関係者への相談・調整</li><li>・小さいことでも、“初手として”実現できそうな活動への挑戦</li><li>・他WGとの意見交換会の開催</li></ul>	※再掲
秋	<ul style="list-style-type: none"><li>・検討における前提条件の整理（帰還困難区域内の状況整理、図示による見える化、他）</li><li>・帰還困難区域の活用アイデアの検討</li></ul>	
冬	<ul style="list-style-type: none"><li>・ロードマップ(案)の検討・とりまとめ</li></ul>	



# 帰還困難区域での脱炭素化事業検討WG

## 課題

現地視察・他事例視察を通じた  
帰還困難区域の活用アイデアの検討

地元関係者の方への相談・調整  
(タイミング、方法、留意事項)

## 対応仮説・支援を期待すること

適当な視察対象地の選定アドバイス

視察手配の簡便化、費用負担の軽減方法

既往の関連情報の把握・共有  
相談先の選定アドバイス・調整方法  
地元自治体との意見交換の場の設置

# ドジョウのつばやき@福島【環境省公式】

## X、Instagram はじめました！

本アカウントは、福島環境再生を進めていくとともに、「福島の今」を伝えたいという思いから立ち上げた、環境省の公式アカウントです！

※本アカウントの名前は、福島県飯舘村長泥地区での環境回復につれてドジョウが戻ってきたことと、環境省で行っている除染で発生した土壌に関する業務を由来としております。

X



Instagram



ドジョウのつばやき@福島  
【環境省公式】

@dojyosaisei

ぜひフォローをお願いします！



## ④ネイチャーポジティブによるコベネフィット検討WG

# ネイチャーポジティブによるコベネフィット検討WG

## 次年度目標

### 「福島12市町村生きもの探しアプリイベント」企画の実証

- ✓ 来訪者や市民参加型で、楽しめる生き物調査（アウトドア、ツーリズム） & 地域の生物データが可視化
- ✓ 自治体・地域企業・研究機関などとの連携
- ✓ 実施時期・期間：R7年度 約2か月間



## 次年度計画

### 2~5月頃：【企画作成・実施の確定】

- ✓ 自治体・企業などと企画内容の協議・検討

### 5~7月頃：【実施の準備】

- ✓ アプリイベントに合わせた、現地イベント・ツーリズムなどの実施準備

### 8~11月頃：【イベントの実施】

### 12~3月頃：【結果の検証・次年度企画】

- ✓ 集まったデータや、参加者の声などから成果を検証

	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
企画検討	▶				
準備		▶			
実証			▶		
結果整理				▶	

※郡山観光交通(株)（孫の手トラベル）様などと企画協議開始

# ネイチャーポジティブによるコベネフィット検討WG

## 課題

### 課題：

- ① 企画実証予算の確保
- ② 実行連携企業・自治体等の参画

産官学民連携したプロジェクトの実績・事例が多数ありますので、是非少しでも興味がある方はヒアリングの機会を頂けると幸いです

## 対応仮説・支援を期待すること

### 対策仮説・期待する支援：

- ✓ 国・研究機関の補助金・資金活用
  - ✓ 復興、環境ツーリズム、地域活性
  - ✓ 生物データの収集による連携研究
- ✓ 自治体予算の確保
  - ✓ 環境局による「生物多様性」啓発
  - ✓ 地域活性「市民参加」「交流人口増加」
  - ✓ Well-beingに繋がる野外アクティビティ
  - ✓ DXツール活用、森林活用 ...etc
- ✓ 賛同企業による協賛・参画
  - ✓ 事業拠点を持つ企業による地域の「ネイチャーポジティブ」へのアクションへの貢献
    - ✓ CSR、社員研修、TNFD対応
  - ✓ 「生きもの・自然」x「〇〇」での企画の実施
    - ✓ ツーリズム、自然観察
    - ✓ 環境教育... etc

# ネイチャーポジティブによるコベネフィット検討WG

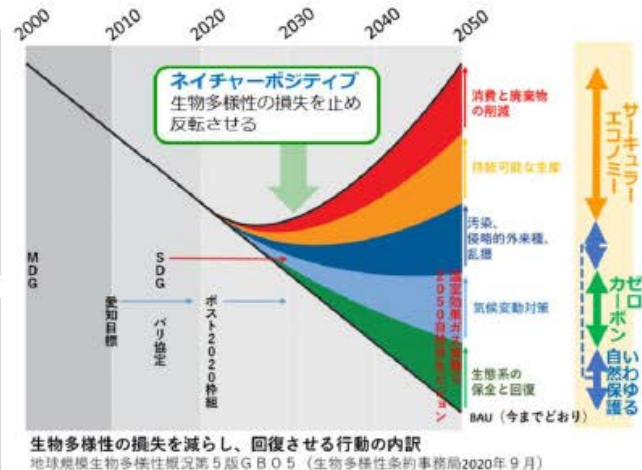
(再掲：目指す姿) 「地域」が主役のネイチャーポジティブ・脱炭素都市の達成

## 概要

- 「脱炭素」と「生物多様性(ネイチャーポジティブ)」は両輪で取り組む必要がある
- 地域におけるネイチャーポジティブを達成することで、炭素吸収量の増加や地域の魅力向上などを促せる可能性がある
- ネイチャーポジティブな地域づくりを目指しつつ、脱炭素や復興への相乗便益を最大化させる

## これまでの取組

- 個別WGの開催・事業立案 (2023年度3回)
- 自治体WGネイチャーポジティブ勉強会の開催 (2024年2月)
- 個別自治体ヒアリングの実施 (2024年8月)
  - 田村市様、富岡町様



## R6,7年度事業化検討

「ふくしま12市町村生きもの探し」Biomeアプリイベント

来訪者・市民参加型の楽しめる調査 (アウトドア、ツーリズム) & 地域の生物データが可視化

## 目指す姿



## ネイチャーポジティブを基軸としたランドデザイン

短期

交流人口・来訪者数増を目指した観光コンテンツ

エコツーリズム、自然観察、フィールドミュージアム、生態系アプリ、ワーケーション、スポーツ・レジャー、ウォーキングイベント、生涯学習...

中期

自然資本のデータ基盤をDXの観点で固める

インベントリ作成、自然共生サイト、環境調査、ビオトープ、壁面緑化、OECM、グリーンインフラ、パラ園再興...

長期

ネイチャーポジティブエコノミーの実現

生物多様性クレジット、カーボンクレジット、外来種防除、獣害対策、Eco-DRR、森林施業、環境保全型農業、COP15、TNFD、ホテルが暮らす町...

# ネイチャーポジティブによるコベネフィット検討WG

## Biome社としての連携プロジェクト実績

60件以上  
自治体・官公庁



イオンのまわりのふるさとの森で  
いきものを探してみませんか？



## ⑤ 脱炭素×農業WG



# 脱炭素×農業WG

## 次年度目標

- 未利用バイオマス資源を活用した新たな農業用資材の開発とそれらを活用した実証試験を通じ、脱炭素型農業を推進すること
- 脱炭素型農業を通じて特色ある食料生産を実現し、被災12市町村の産業振興と復興の一助となること
- 脱炭素型農業の成果を福島県内外に発信し、農業分野における脱炭素や資源循環のモデルとなること

## 次年度計画

4~5月：本WGの実証実験に活用可能な拠点の洗い出し

5~6月：実証試験に活用する資材（生分解性育苗ポット、生分解性マルチフィルム等）の選定

6~9月：実証試験の実施

9~12月：出前授業による脱炭素×農業の普及啓発

1~3月：実証試験の振り返りと脱炭素×農業WGの会合の実施

※生分解性の育苗ポットの脱炭素化効果/省人化効果についての理解を深めてもらうことを目的に、東海化成株式会社と共同して南会津高校、福島明成高校において出前授業を行う予定です（三菱ケミカルグループ株式会社）

※えこえね南相馬研究機構の高橋様に協力頂いて、南相馬市等において脱炭素×農業に興味を持って下さる事業者の方々に対し、ヒアリング調査を実施予定です

# 脱炭素×農業WG

## 課題

## 対応仮説・支援を期待すること

✓ 脱炭素よりも経済性が重視されること

国や自治体からの支援（補助金等）

✓ 脱炭素×農業を目指す取り組みがCSRの域を出ないと思われがちなこと

国や自治体に脱炭素化効果のある農業用資材等を積極的に活用してもらうことで、ファーストムーバーを支援する

✓ 生分解性のマルチフィルムや育苗ポットの脱炭素化効果/省人化効果についての理解が十分でないこと

国や自治体に脱炭素化効果のある農業用資材等を積極的に活用してもらい、同時にLCAの評価を行うこと

✓ 再生可能なエネルギーであるバイオガスについての理解が十分でないこと

国や自治体にバイオガスを積極的に活用してもらい、同時にLCAの評価を行うこと

✓ WG活動の大半が参画企業の手弁当

国や自治体からの支援（補助金等）

## ⑥脱炭素建築×復興まちづくりWG

# 脱炭素建築×復興まちづくりWG

## 次年度目標

- 課題に対する各団体からの提言を取り纏め、自治体への提案を行う
  - まちづくりにはプロジェクトの情報収集が必要であり、自治体WGと連携を強化する。
  - また、立地推進協議会等、ヒアリング対象を拡げてニーズを確認する。

## 次年度計画

- 4~6月：課題に対する提案につき、WG内で案出し～議論～取りまとめ
- 7~12月：各所への提案、並びに反応を受けての再検討～再提案
- 4月～：並行してヒアリング対象拡大、プロジェクトに対する個別提案

# 脱炭素建築×復興まちづくりWG

## 課題

ニーズありきのWGであるが、本WGへ相談を  
いただけていない

現在は自治体主体のプロジェクトが少ない

提案の内容・規模によっては一自治体のみならず  
広域で取り組んだ方がよいケースもある

## 対応仮説・支援を期待すること

自治体内での認知が不足？  
紹介されていない？紹介したけど魅力がない？  
⇒まちづくり関連の部署等にも認識いただきたい

民間含め、小規模でも計画はあるはず。  
⇒地元企業や民間企業に対しても認知が必要。  
ギャップがあればヒアリングし、修正したい。  
※WGへのゲスト参加等も含め  
興味ある企業様の参加をお待ちしています。

県や自治体WG等を活用した広域連携、  
イノベーションコースト構想・移住支援センター等との  
コラボレーション

## ⑦地域還元型電源開発WG

# 地域還元型電源開発WGでは 発電事業が地域に還元される仕組みづくりを検討しています

## 地域還元型電源開発WG

概要	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 風力、太陽光、小水力等の発電事業の諸課題に対する地元自治体や地元住民等の地域に還元される仕組みづくりの検討を行う</li></ul>
これまでの取組	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 枠組み検討を推進すべく、地域金融機関、建設事業者、電気事業者等をメンバーに迎えた</li><li>■ プラットフォーム参加自治体に対して、事業案に対する課題感・ニーズのヒアリングを実施した<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自営線設置によるPPA等を通じた再エネ地産地消の推進<ul style="list-style-type: none"><li>→既存の再エネ施設を活用することは可能であるが、地域に裨益する地産地消のためには需要規模の観点からも広域連携が肝要である</li></ul></li><li>・ 営農型太陽光発電の導入<ul style="list-style-type: none"><li>→営農型ソーラーシェアリングの導入を検討するに当たり、有望な栽培作物を知りたい</li></ul></li><li>・ バイオマス等の地域資源を利用した発電事業<ul style="list-style-type: none"><li>→間伐材の活用による木質バイオマスに関心を持っているが、収益性の確保を懸念している</li></ul></li></ul></li></ul>
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 広域連携も見据えた地域電源の創出</li><li>■ 持続可能な地域電源開発に向けて、収益性の向上及び地域へ裨益する仕組みの構築</li></ul>

## ⑧脱炭素燃料WG



# 脱炭素燃料WGでは バイオ燃料・水素を活用した燃料供給・利活用による事業化を目指しています

## 脱炭素燃料WG

### 概要

- バイオ燃料・水素を活用した燃料供給・利活用による事業化を目指して、地域の未利用資源（農業・畜産業残渣や廃棄物など）や水素などを、最新技術により脱炭素燃料に変換するサプライチェーンの構築を目指すためのビジネスモデルを検討する

### これまでの取組

- 枠組み検討を推進すべく、燃料事業者、運航事業者、電気事業者等をメンバーに迎えた
- 航空機燃料としてSAF導入を検討すべく、サプライチェーン構築に向けた検討に着手（R4）
- グリーン水素を活用した脱炭素化をテーマに設定（R4）
- 脱炭素燃料の利活用を検討している福島地域自治体に対して、事業案に対する課題感・ニーズのヒアリングを実施した（R5）
  - ・ 水素・CO2を活用したカーボンリサイクル燃料の製造・利活用  
→水素サプライチェーンの構築に当たり、価格競争力・供給安定性の強化が必要である
  - ・ 運輸・産業部門に対する燃料としての水素利活用  
→水素需要の拡大に向けて、産業部門・運輸部門におけるニーズを確認したい  
→RE100化を目指す産業団地において水素利活用が推進できるような環境構築が必要である

### 目指す姿

- 水素に係る浜通り地域周辺での需要家特定及び県外からの需要家誘致の進展
- 需要サイド・供給サイドともに各脱炭素燃料のキープレイヤーを特定し、サプライチェーン構築に向けた本格的な取組に着手できている状態
- 地域課題である「雑草」を資源に燃料を作るような発想で課題解決と脱炭素燃料の創出を同時実現する

# 第2部 座席表

司会

講壇

座長:渡邊 明様

発表者

④ネイチャー  
ポジティブによる  
コベネフィット検討WG

発表者

⑤脱炭素×農業WG

発表者

⑥脱炭素建築×復興  
まちづくりWG

発表者

⑧脱炭素燃料WG

発表者

①脱炭素×観光  
による地域振興WG

発表者

②脱炭素物流  
検討WG

発表者

③帰還困難区域での  
脱炭素化  
事業検討WG

発表者

⑦地域還元型  
電源開発WG

パンフレット  
配布机

パンフレット  
配布机

フリー  
席

フリー席

事務局

出入口



# ドジョウのつばやき@福島【環境省公式】

## X、Instagram はじめました！

本アカウントは、福島環境再生を進めていくとともに、「福島の今」を伝えたいという思いから立ち上げた、環境省の公式アカウントです！

※本アカウントの名前は、福島県飯舘村長泥地区での環境回復につれてドジョウが戻ってきたこと、環境省で行っている除染で発生した土壌に関する業務を由来としております。

X



Instagram



ドジョウのつばやき@福島  
【環境省公式】

@dojyosaisei

ぜひフォローをお願いします！



# 閉会ご挨拶

# 参加者アンケート

# 令和6年度 第2回「脱炭素×復興まちづくりプラットフォーム」総会 ～出席者アンケート～



二次元コードがうまく読み取れない方は、事務局にお申しつけください